



こーひーぶれいく

キプロス訪問記

小川 数馬

Ogawa Kazuma

2023年6月にErasmus+プログラムでキプロスの大学を訪問する機会を得たので、キプロスについて書きたいと思う。

キプロス島の場所をイメージできない方も多いかと思うので、まず、そのロケーションについて記載したい。キプロス共和国がEUに加盟している地中海の島国であるといった程度の知識はあった。しかし、地図を見ると、思っていたよりずいぶん中東寄りに位置している。レバノンのベイルートから北西に200 km 強であり、トルコの南、経度を見るとカイロよりも東側に位置する。また、面積は、9,251 km² と四国の約半分程度の島である。

次に経路を考えた。イスラエルのテルアビブまでの往復チケットを購入し、テルアビブからキプロスまではLCCを使うことにより、比較的安価に行くことができることが分かった。しかし、なかなかハードで、まず、成田に前泊し、10:45 成田発のフライトで、同日の18:10 にチューリッヒに到着、22:45 チューリッヒ発翌日 3:35 テルアビブ着、8:30 テルアビブ発 9:30 キプロス着とかなりの長旅になった。

キプロスは、1960年に英国よりキプロス共和国として独立しているが、1974年、ギリシャ軍事政権の支持を得たギリシャ系武装勢力がクーデターを企図したのを機に、トルコ軍がトルコ系住民保護を名目に侵攻し、キプロス北部約37%を占領した。以降、キプロスは北部のトルコ軍支配地域（トルコ系）と南部のキプロス共和国政府支配地域（ギリシャ系）とに分断されている（トルコ系の「北キプロス・トルコ共和国」は1983年に独立を宣言。トルコのみが国家承認 [外務省HPより]）。この分断、首都のニコシアの中にも境界線（国境）が存在し、パスポートを所持していれば、容易に国境を越えることができる。キプロス共和国で使われている言語はギリシア語で、通貨はユーロ。北キプロス・トルコ共

和国では、言語はトルコ語で通貨もトルコリラ。このように言語や通貨も異なり、同じ都市（ニコシア旧市街）の中でも国境を越えて北に行くと異なった街の雰囲気を感じることができるなんと貴重な体験であった。

海外に行く多くの人にとって重要なことの1つに食事があると思う。そして、筆者にとっては、美味しいビールがリーズナブルな価格で提供されるかが非常に重要である。キプロスの料理は、ギリシア料理に近く、美味しかった（筆者は、地中海に面しているヨーロッパの国の料理はどの国の料理も美味しいと感じている）。ビールは、世界大手カールスバーグの工場がキプロスにもあるらしく、レストランやスーパーで最もメジャーなビールであった。他にはおそらく純国産のKEOやLEONといった銘柄があり、カールスバーグと同系統で飲みやすく、食事ともあわせやすいビールであった。

観光業を主要産業としているキプロスでは、海岸にはリゾートホテルが建ち並び、ヨーロッパから観光客が多く来訪している。海はとても美しく、観光客が多く来る理由が理解できた。海岸近くのストリートには多くのレストランやお土産屋が営業していたが、24時間営業の薬局の存在は薬学教育に携わっている筆者の目にとまった。一方、キプロスには、その小さな島の中にマリンスリゾートだけでなくマウンテンリゾートも存在しており、観光にはとても魅力的な島に思えた。

滞在中には、大学訪問だけではなく、病院核医学の見学もさせて貰った。ニコシアにはPET装置がある病院はなく、キプロスでもPETがある病院は1施設だけで、見学した病院の検査の多くは^{99m}Tc製剤を用いた骨シンチグラフィとのことであった。最近、論文や学会において、^{99m}Tcの報告は少なくなっている印象を受ける。しかし、先進的な核医学診断を行っていない地域においては^{99m}Tc標識薬剤の存在価値は高く、Erasmus+プログラムの相手方の教員が^{99m}Tcの研究者でもあることから、今回のキプロス訪問で、自分の^{99m}Tc研究の比重を少し重くしようかと思った。

（金沢大学）